

# 吸入療法におけるアドヒアランスの向上

## *Improvement of adherence in inhalation therapy*

熱田 了

Ryo Atsuta

順天堂東京江東高齢者医療センター呼吸器内科科長

### Summary

気管支喘息(以下, 喘息)治療において, 薬物治療とともに重要なのがアドヒアランスの向上である。近年, 喘息死は減少しているが, 症状が残存している患者はいまだに多く存在している。喘息患者は症状が残存しているにもかかわらず, 自身の喘息コントロール状態に満足していることが多い。これは患者自身がガイドラインにあるような治療の目標・病態を十分に理解できていないために生じている。他の慢性疾患と比べ, 喘息はアドヒアランスが低いことが指摘されており, このアドヒアランスの低さが症状残存の重要な因子となっている。アドヒアランスを妨げる要素は患者・医療従事者・医療制度の3要素から成り立っており, その原因は多岐に渡る。その原因を明らかにして, より有効で効率的な患者指導をすることが重要である。

### Key words

アドヒアランス, コンプライアンス, Adherence Starts with Knowledge 20 (ASK-20)

### はじめに

近年, 吸入ステロイド薬(inhaled corticosteroid; ICS)の普及に伴い気管支喘息(以下, 喘息)自体のコントロールレベルも改善し, 喘息死亡者数は年間2000人以下になった。しかしながら種々の治療を行っても改善を認めるのが困難な重症喘息は, 喘息患者全体の約10%を占めている<sup>1)</sup>。この重症喘息には2種類のタイプが存在する(図1)。一つが治療抵抗性の喘息(therapy-resistant asthma)であり, 今後新しい機序の治療薬により, 喘息状態の改善が期待できるタイプである。もう一つがマネジメント困難喘息(difficult-to-manage asthma)で, アドヒアランスや心理社会的問題, 合併症, 環境因子などさまざまな理由で喘息のコントロールが不良となっているタイプである。本稿ではアドヒアランスに着目し, 喘息治療におけるアドヒアランスについて解説する。

### I 喘息患者の服薬継続率低下と病状認識不足

一般的に喘息患者のアドヒアランスは低いことが知られている。その原因として治療内容や治療